主題：命の木

メッセージ　5

二本の木と二つの生活の原則

聖書：創 2:9．ヘブル 4:12．Ｉコリント 2:14-15．ローマ 8:4, 6．エペソ 4:18-19．Ｉヨハネ 2:27

Ｉ．創世記第2章9節の二本の木（命の木と善悪知識の木）は、二つの生活の原則を表しています：

Ａ．この二本の木は、クリスチャンが二つの異なる原則にしたがって生きることができることをわたしたちに示しています――Ｉコリント 8:1。

Ｂ．クリスチャンであることは、正しいか間違っているかの原則の事柄や、善悪の原則の事柄ではなく、命の事柄です――Ｉヨハネ 5:11-13, 20。

Ｃ．わたしたちは主イエスを受け入れて新しい命を得たとき、別の生活の原則を獲得しました。それは、命の原則です。もしわたしたちがこの原則を知らなければ、わたしたちは命の原則をわきに置き、正しいか間違っているかの原則に従うでしょう。

Ｄ．クリスチャンであることは、あるものが正しいか間違っているかを問う事柄ではなく、何かをするときにいつもわたしたちの内側の命に確認する事柄です――ローマ 8:6．エペソ 4:18-19。

Ⅱ．わたしたちのクリスチャン生活は、内なる命に基づいているのであって、正しいか間違っているかという外側の基準に基づいているのではありません。わたしたちの生活の原則は、内側のものであって、外側のものではありません：

Ａ．わたしたちが正しいか間違っているかの原則によって生きるなら、わたしたちはこの世の人たちと同じです――エペソ 4:17。

Ｂ．正しいか間違っているかは、外側の基準によって決まるのではなく、内なる命によって決まります。

Ｃ．わたしたちは邪悪なものすべて避けるべきであるだけでなく、単に善なるものもすべて避けるべきです：

１．クリスチャンは、命から来るものだけを行なうことができます。邪悪なものと、善なるものと、命のものがあります――ヨハネ 1:4．10:10．Ｉヨハネ 2:25．5:13。

２．創世記第 2 章 9 節の「善悪」は、共に合わさって一つの道となっており、「命」は別の道です。

３．善の基準よりも高い基準があります。それは、命の基準です――ヨハネ 11:25．Ｉヨハネ 5:11-12。

４．クリスチャン生活の基準は、邪悪なものを対処するだけでなく、善なるもの、正しいものも対処します。

５．人の基準によれば多くのものは正しいのですが、神聖な基準はそれらを間違っていると告げます。なぜなら、それらは神聖な命に欠けているからです。

Ｄ．クリスチャン生活は、内なる命に基づいています――ローマ 8:2, 6, 10-11：

１．クリスチャンはだれも、命から離れて何も決定すべきではありません――Ｉヨハ

ネ 5:13。

２．内なる命を増加させるものは何であれ正しく、内なる命を減少させるものは何であれ間違っています。

３．わたしたちの進む道は神の命であり、正しいか間違っているかではありません。これら二つの原則の間の相違は限りなく、その対比は大きいです。

４．わたしたちが問わなければならない一つの質問は、わたしたちの内側にある神聖な命が上がるか、それとも下がるかです。わたしたちが取るべき道はこの事によって決められなければなりません。

５．神の要求は、わたしたちが神聖な命を満足させることです。わたしたちは神がわたしたちに与えた命を満足させる方法で事を行わなければなりません――ヨハネ 1:4．3:15。

６．わたしたちはクリスチャンとして、自分が犯した罪のゆえに神の御前で悔い改めるべきであるだけではありません。わたしたちは多くの時、自分が行なった善い事のゆえに神の御前で悔い改める必要があります。

７．わたしたちの生活の原則は、善悪を区別するものではありません。わたしたちは神の御前に来て、何が命のものであり、何が死のものであるかを決めなければなりません――ローマ 8:6．Ⅰヨハネ 3:14。

Ⅲ．わたしたちが命の原則にしたがって生きようとするなら、霊と魂を識別し、霊を認識する必要があります――ヘブル4:12．Ⅰコリント2:14-15：

Ａ．その霊である主は、わたしたちの霊の中で生きており、住んでおり、働いており、動いており、行動しており、わたしたちは彼と一つ霊です――Ⅱコリント 3:17．ローマ 8:16．Ⅰコリント 6:17:

１．もしわたしたちが主を実際的な方法で知り、日常生活の中で経験することを願うなら、わたしたちの霊を識別することを学ばなければなりません――Ⅰコリント 2:14-15。

２．もしわたしたちが、わたしたちの人の霊を知らないなら、わたしたちは自分の内側の神の動きを理解することができず、主に従うこともできません。なぜなら、主はその霊であり、わたしたちの霊の中に生きておられるからです――Ⅰヨハネ 2:27．Ⅱテモテ 4:22。

Ｂ．わたしたちは、わたしたちの霊とわたしたちの他の内側の各部分との違いを認識する必要があります――詩 51:6．エゼキエル 36:26．Ⅰペテロ 3:4。

Ｃ．魂の中で行なうことは何であれ、それが正しくても間違っていても、古い人の中で生きることです。こういうわけで、わたしたちは自分の魂の命と自己を否む必要があります――マタイ 16:24-26。

Ｄ．わたしたちは自分の霊に従うとき、主ご自身に従います。なぜなら、主はわたしたちの霊の中にいるからです――Ⅱテモテ 4:22．Ⅰコリント 6:17。

Ⅳ．命の原則にしたがって生きるために、わたしたちは命の内なる感覚に従う必要があります――ローマ8:6．エペソ4:18-19．イザヤ40:31：

Ａ．命の感覚は、主観的で、個人的で、実際的です：

１．命の消極面の感覚は、死の感覚です――ローマ 8:6 前半。

２．命の積極面の感覚は、命と平安の感覚であり、良心には強さ、満足、安息、明るさ、心地よさがあります。――ローマ 8:6 後半。

Ｂ．命の感覚の源は、神聖な命であり（エペソ 4:18-19）、命の法則であり（ローマ 8:2）、聖霊であり（ローマ 8:11．Ｉヨハネ 2:27）、わたしたちの中に住むキリストであり（ヨハネ 15:4-5）、わたしたちの中で活動する神です（ピリピ 2:13）。

Ｃ．命の感覚の機能によって、わたしたちは自分が天然の命の中で生きているのか、それとも神聖な命の中で生きているのかを知り、また自分が肉の中で生きているのか、それともその霊の中で生きているのかを知ります――Ｉコリント 2:14-15．ローマ 8:8-9．ガラテヤ 5:16-17

Ｄ．信者の命における成長は、命の内なる感覚をどのように扱うかにかかっています――エペソ 4:15．コロサイ 2:19．Ｉコリント 3:6-7。

Ｅ．わたしたちは自分自身を命の感覚の中へと祈り込み、命の支配し、導き、方向づける要素の下で日ごとに生活するする必要があります――ローマ 8:6．エペソ 4:18-19．Ｉヨハネ 2:27。

Ｆ．わたしたちは霊にしたがって歩けば歩くほど、また命の感覚に従えば従うほど、ますます命の原則にしたがって生きるようになります――ローマ 8:4, 6。

© 2016 Living Stream Ministry